

昨年 9 月から 6 か月間カザフ国立大学に留学した東北大学の冬木里佳さんと、ロシア語劇団コンツェルトでレールモン
トフの『人間と情熱』の公演（本年 2 月）に取り組んだ東京外国語大学の平原真宏さんから、それぞれ体験記を投稿して
いただきました。冬木さんの体験記は、最近増えてきたカザフスタンでの留学について、現地での生活が分かりやすく書
かれていて、これから留学を考えている人の参考になります。平原さんの報告記は、大学生活の中での体験が人生の大き
な糧になることを教えられる内容で、とても勇気づけられます。（編集部）

「カザフスタン留学体験記」

《投稿》

何気ない一場面が何か宝物のように思える

冬木 里佳（東北大学）

文書館からの帰り道、近くの学校に通う子どもたちに混じ
ってバスに揺られながら、荒野を覆う一面の雪景色と遠くの
山々に沈みゆく夕日をぼんやり眺めるのが好きだった。よく
通っていた文書館のある村を通るバス路線だと、都市部とは
異なり、車内で聞こえるのはだいたいカザフ語で、私に分か
るのは Paxmet（ありがとう）くらいしかない。私に合わせて
ロシア語で話してくれていたが、お世話になった方々の多
くが日常的に使うのはカザフ語だったので、カザフ語も勉強
しておけば良かったなあと留学中はよく思ったものである。
とにもかくにも、何気ない一場面が何か宝物のように思えて
しまうほど、カザフスタン・アルマトイでの半年間の留學生
活は忘れがたいものとなった。



カザフ国立大学

【最初のテスト】

9 月初頭の授業初日、私と同じ時期にカザフ国立大学文献
学部（正確には、カザフ国立大学教育サービス「グロッサ」
多面的科学イノベーションセンター言語コース）での留学を
開始して、一緒にグループレッスンを受けるという学生が教
室に集められ、テストが行われた。難易度は A1 レベルで、
クラス分けを意図してというよりは個々の学習進度を測るテ
ストのようだった。しかしテストの結果、それぞれの学習進
度に大きな差があるということが判明し、相談のうえ個別レ
ッスンに変更されることになった。ただ、納めた授業料はあ
くまでグループレッスンの金額だったので、1 コマ 50 分週
12 コマを、本来同じ授業を受けるはずだった私たち学生 3
人で割り、1 人あたり週 4 コマを個人レッスンで、というこ
とになった。以来、他の学生とは廊下ですれ違う程度でほと
んど顔を合わせていない。留学をするにあたり友達ができる
かは重要な問題だが、私は留學生活の大半を 1 人で過ごした。

先生にも何度か心配されたが、博士論文のための史料調査を
兼ねて来ていたということもあり、とくに気にすることなく、
日々外国での新しい発見に胸を躍らせながら楽しく生きてい
た。

【授業】

私の場合、授業は 1 週間のうち文法 3 コマ、会話 1 コマで、
時間割は先生が他に受け持つ授業との兼ね合いなどでしばし
ば変更される。授業は英語やジェスチャーを交えつつ主にロ
シア語で行われたが、どの言語を使用するかは学生に応じて
変わるようで、隣の教室では英語で授業が進められていた。
文法の授業は、その日扱う事項について説明を受け、練習問
題を解き、間違えた箇所を解説してもらう、以上の繰り返し
で、その過程で発音などについても指導が入る。史料調査も
兼ねて留学している私は、基本的に宿題以外の自主学習をし
なかったため、練習問題中心の進め方は授業内でおおむね知

識を定着させることができるという点でありがたく、また対外国人ロシア語教育学を専門とする方による、学生個人の学習進度や個性を踏まえての解説は大いに理解の助けになった。会話の授業では、新聞記事をもとにした教材を使用し、現代社会の諸問題について先生とごく簡単な討論を行った。

【図書館】

「街に出て、カフェに行ったりして、生のロシア語を沢山聞いて」とは、顔を合わせて数回で私のインドな性格を見抜いた先生の言である。とはいえ毎度カフェに行くお金もないので、かわりによく利用したのが、アバイ通りにあるカザフスタン国立図書館だった。国立図書館には軽食堂やコーヒーの自動販売機、さらにはトイレトペーパー完備の無料トイレもあり、一日中快適に過ごすことができる。入口で手荷物検査を受けたあと、ゲートを通って左の登録カウンターで外国人も簡単に利用者登録が可能である。利用方法の詳細は図書館のウェブサイトを確認するか、図書館スタッフ（とても親切！）に尋ねるのが良い。私は週末、コーヒーを片手にここで1週間分の日記をまとめて書くのが密かな楽しみだった。

【生活】

11 月も下旬に差し掛かるころ、私は引っ越しを余儀なくされた。滞在先アパートの水漏れがひどくなり大家さんに相談したところ、全般的な改修工事が必要だということになったのである。もともと古いアパートで、私の入居前に室内の改装はされたが、配管等は古いままだった。放心状態で JIC の協力者の方に連絡をとると、大家さんとの交渉やアパート探しなどを助けてくださり、時期も幸いしてすぐに新しい部屋へ移ることができた。改めて、沢山の方に支えられて留学することが出来ているのだと実感した出来事である。食事については、体力的・時間的制約もあり自炊はほとんどせず、安い食堂、屋台、パン屋を探して通っていた。ちなみに、アパート関連で何か問題があった時、私はすぐに WhatsApp で大家さんに相談していた（トイレの流水が止まらない、シャワーが壊れた、ゴミ捨て場はどこですか...。なお、私の知る限り、アルマトイではゴミは所定のコンテナに分別不要で、いつでも出すことが可能である）。大家さんはどちらも親切な方で、問題にはすぐに対応してくださった。家賃や光熱費の支払い、カザフスタンではお馴染みカスピ銀行の送金サービスを利用していた。相手の電話番号が分かればアプリから簡単に送金できるので、家賃は毎月定額を、光熱費は大家さんから当月分の金額を知らされ、それぞれ大家さんの電話番号に送金、という形である。また、留学当初はどこで何が売られているのか分からず、とにかく通販カスピ・マガジンに世話になった。こちらでもカスピ銀行アプリから利用可能で、対応商品については最寄りのカスピ・ポストマートに届けても

らえる。最初のアパートにはレースカーテンしか取り付けられていなかったのも、私は手始めにカーテンを購入した。



夜になるとライトアップされるカザフスタン国立図書館

【余暇】

予めマルチプルのビザでお願いしていたので、文書館や図書館が閉まる年末年始には隣国ウズベキスタンを旅行した。行きは飛行機、帰りは鉄道の約1週間の旅である。チケットの購入にはこれまたカスピ銀行アプリ内のカスピ・トラベルを利用した。なお、旅行などで一時的にカザフスタンを離れる際は、大学に申し出る必要があった。この手続きをしなければトラブルに巻き込まれる可能性があるということなので、旅行などでカザフスタンを離れる際は、担任の先生にその旨を伝えることをおすすめしたい。肝心の旅行の感想だが、(自分用の) お土産はこの思い出だけで良いなと思えるほど素敵な旅だった。

* * *

なんだかんだとトラブルも多かったが、その分逞しくもなった。ここに書いた諸々、書かなかった諸々を思い起こすたび、あらゆる感情の入り混じったものが記憶の中からにじみ出す。だが、その複雑さすらも愛おしい。アルマトイを去る夜の空港で、「ビザ、今日までじゃないか」と言われ、「残念ながらね」と思わず返してしまうくらいには、不安ばかりだった半年前とは打って変わり、この国を離れがたく思ってしまったのだった。（ふゆき・りか）

